

# 一歩

## あいさつ

生徒朝会で、生徒会本部からあいさつ活動についての連絡がありました。あいさつのできる大形中学校にしたいという願いから、全校生徒へ呼びかけがありました。

あいさつは、その人の気持ちが表れる行為であるとともに、人間関係をよくするコミュニケーション手段だと思っています。あいさつをしなくても、別に何も変わらないと思う人もいることでしょう。しかし、あいさつをしてその有効性を実感した人の多くは、その後もあいさつを継続しています。



あいさつを、自転車を例にしてイメージしてみましょう。あいさつは、自転車の「潤滑油」と同じです。自転車のチェーンは、潤滑油をほんの数滴差すだけで非常になめらかに動いてくれます。数滴なのに、自転車をこぐと、音もせずなめらかに回り実感できるほど違います。しかし、乗る人が忙しいと言い、手入れをしなかったり、手入れが必要ないと考え乗りっぱなしで使っていると、徐々に音が出たり、なめらかさのないギクシヤクした乗り心地になっていきます。そして、あるとき大きな不具合になったりします。チェーンに潤滑油を差すかどうかは、自転車の状態を見る気遣いも欠かせません。潤滑油は、差さなくてもしばらくは動いてくれます。しかし、定期的に数滴差すだけで、自転車の長持ち具合も大きく異なります。

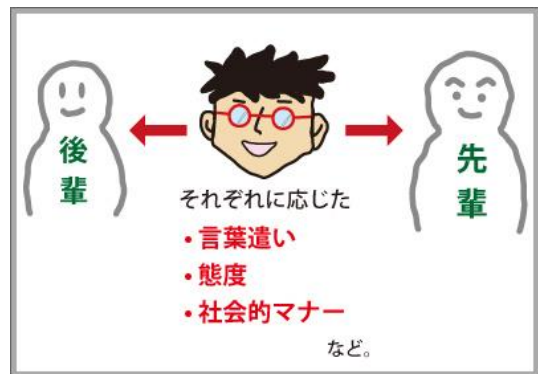


あいさつも、普段しなくてもすぐに困ることは起きません。他の人と一緒に活動に取り組むとき、知っている人とであれば、不安なく前向きに活動に取り組めます。しかし、知らない初対面の人と一緒に活動しようとする、どんな人なのだろうか、声をかけても大丈夫だろうかなど、不安がわき起こります。もし、相手が話したことのない人であっても、あいさつを交したことのある人であれば、あいさつをしたことのない初対面の人と活動するより不安や緊張感が少なく取り組めるでしょう。

みなさんは、同学年の仲間にあいさつをすることは、難しくないでしょう。でも、中には小学校・中学校の義務教育9年目でも一度も話したことのない人もいられるかもしれません。みなさんが、後輩や、先生や職員の方にあいさつをすることも、さほど難しいことではないでしょう。日頃からあいさつの声をかけている人であれば、一緒に活動はしやすいことでしょう。



後輩の立場で考えてみましょう。1・2年生にとって、3年生の先輩からあいさつをしてもらっていると、一緒に活動するときの安心感が高まります。いつもあいさつをしてくれる先輩なら、1・2年生の後輩もスムーズに活動に入ることができたりすることでしょう。もう少ししたら活動の始まる大空祭(体育祭)で、初めて会った3年生と一緒に活動するのに、先輩からいきなり「全力でがんばれ」と言われても、1・2年生の後輩は戸惑うことでしょう。しかし、3年生が日頃から後輩にあいさつをしていれば、同じように「全力でがんばれ」と言われたとき、日頃からあいさつをしてくれる先輩が言うのだからがんばろうかな、という気持ちになることでしょう。よいスタートができ、それ以後の活動に気持ちよく取り組めることでしょう。



あいさつは、何気ない一言でしかありませんが、潤滑油の役割をしてくれる大切なものです。効果はすぐにあらわれるのではなく、集団のまとまりや活動時の安心感となって効果があらわれるものなのです。

## 直後のうっかり、残念

昨日の一步にも少しだけ書きました。生徒朝会で「遅刻はダメ」と言われた翌朝の遅刻。みんなががんばっているところに水を差す行為です。(※「水を差す」とは、うまくいっているところにじゃまを入れること。みんながやろうとしていることに反すること。)



「寝坊したから仕方ない」「悪気がなかったから仕方ない」という言い訳や理由はあるでしょうが、最上級生である3年生が言われたことをできない今回のような姿を後輩が知ったら、どのように感じるでしょうか。『3年生でもできないのだから、私たちもできなくても仕方ない』『3年生がやっていないのだから、1・2年生だってしなくていい』と、悪い模範として扱われます。

もちろん、遅刻した生徒はそのようなつもりではなかったでしょう。

若いみなさんが使っているスマホやSNSでは、発言した人の意志や気持ちなど関係なく、ちょっとしたアラについてネット炎上を楽しむ人がいるのが現状です。「そんなつもりでなかった」「悪気がないんだからいい」などと思っても、あなたのネット上での発言について、いつまでもつきまとい、ときには「さらし」と呼ばれる氏名や住所、学校や家庭の様子など個人情報までネットに載せ追い詰める人たちもいます。



みなさんの遅刻はSNS上のことではありませんが、集団生活や人間関係でも「私一人くらい」とか「少くくらい」だから許されるものではなく、改善すべき行為です。SNS時代に生きるみなさんは、他人から後ろ指を指される状況にあるかもしれず、もしかしたらオジサン世代より気遣うことが多いと言えるのかもしれない。



失敗をまったくせずに生活することは不可能ですが、失敗するにもタイミングが悪いです。話が合った次の朝は、絶対にみんなががんばるべき時です。そして、失敗したら「ごめんなさい」です。